

竹林問題から 考える 地域と資源の 関係の再編集

パートナーシップミーティングin葉山

2026年2月22日（日）

葉山竹活&逗子竹活代表 内山学



自己紹介

三浦半島で竹林の現場に関わっています

- 葉山竹活 & 逗子竹活 代表
- 葉山・逗子の双方で竹林整備に継続関与
- 学校授業・地域連携・行政協働
- メディア掲載・取材等多数



地域の竹林の数を知っていますか？

逗子：207か所

葉山：210か所

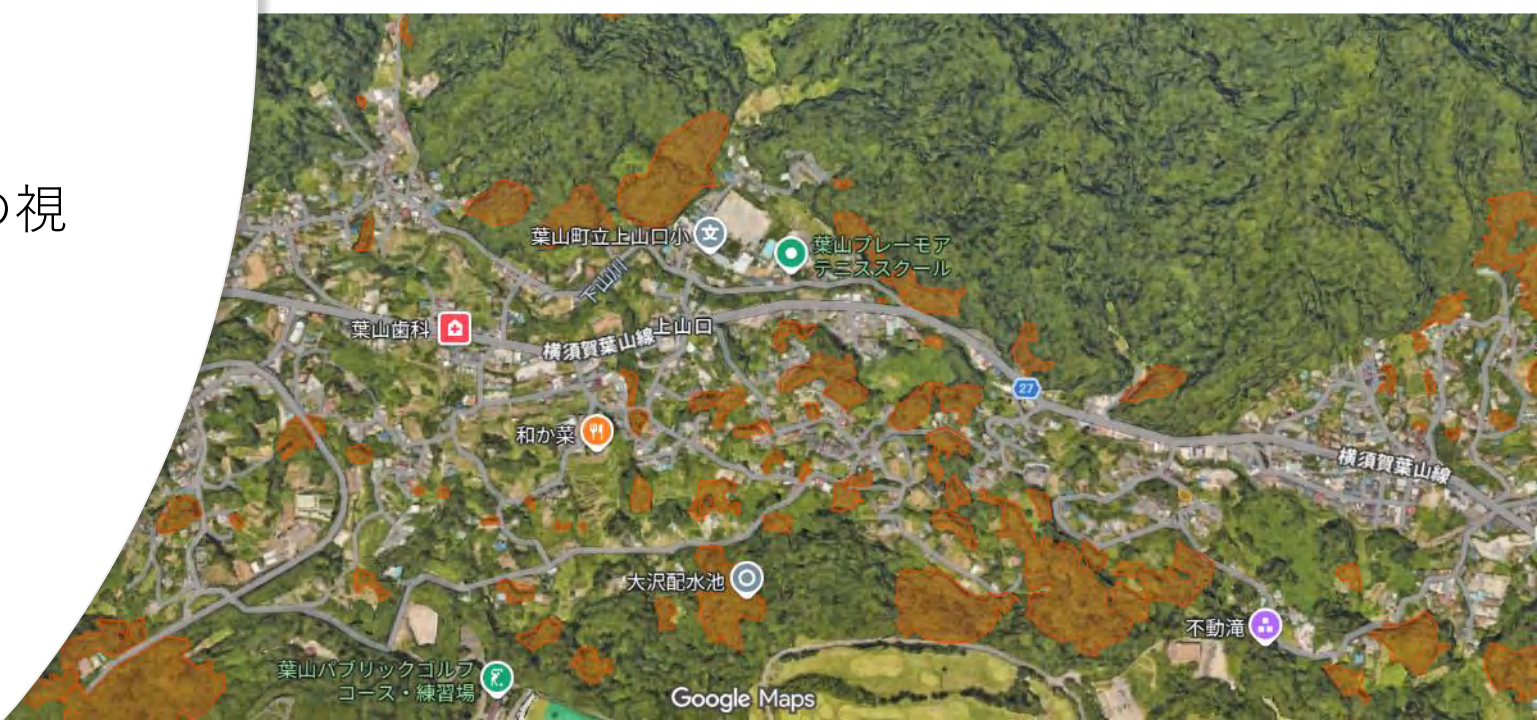
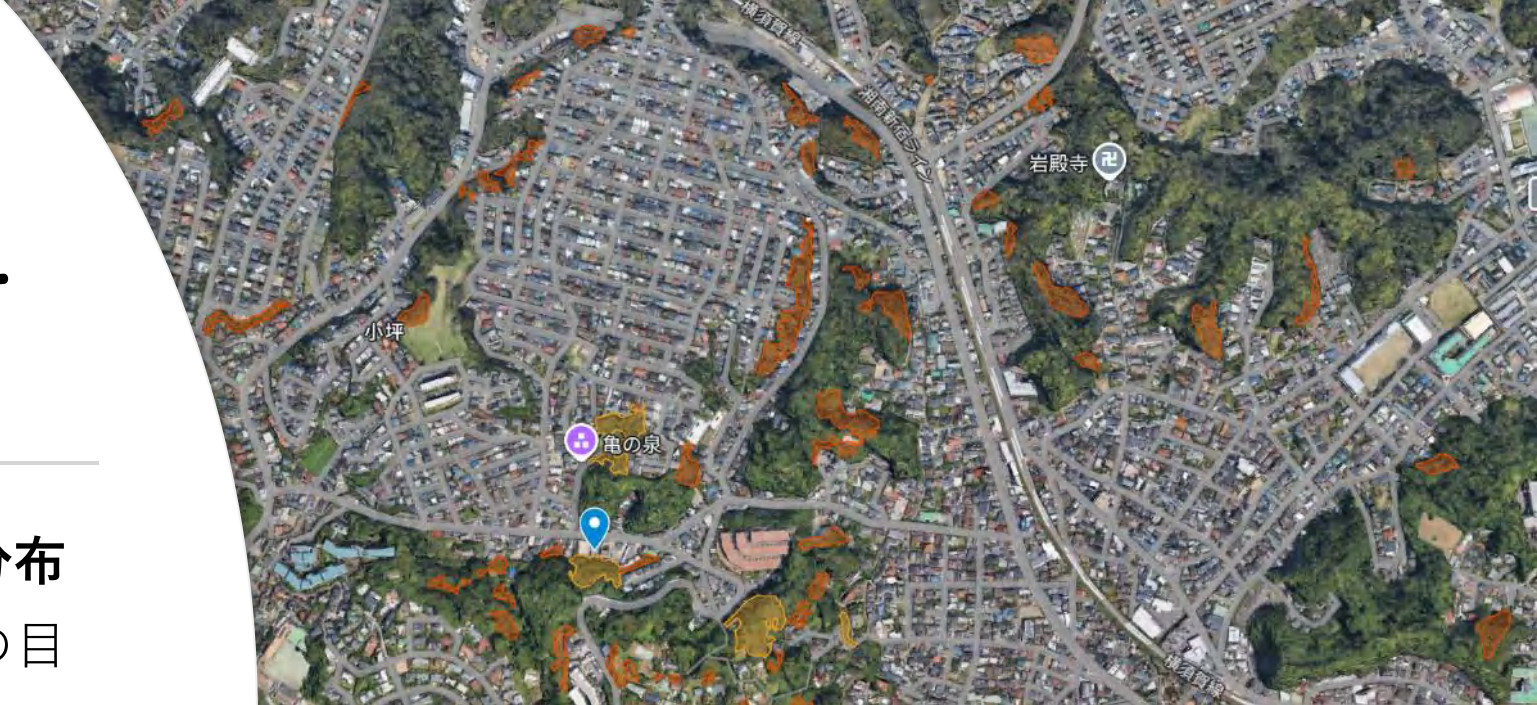
⇒数だけ見ると同じです。



広がり方が全く違います

逗子：崖線に沿った **線状（破線的）** 分布
→ 住宅地の背後にあり、日常的に人の目に触れる小規模な竹林

葉山：谷戸単位の **面的分布**
→ 生活が途絶えた場所で広がり、人の視界から外れやすい大規模な竹林



逗子の竹林の成り立ち

宅地背後の崖地に植栽されたマダケ竹林

- 宅地造成時の土留め、斜面管理目的
- 人による維持管理を前提とした人工植栽
- 地域の高齢化による管理者不足で荒廃




葉山の竹林の正体

竹が勝手に暴走している
のではありません

- 管理しきれなくなった
屋敷まわりの竹林
- 耕作放棄地、タケノコ
畑跡
- 旧生活圏の手入れが止
まり、拡大した竹林





実は逗子にも同じ 構造の場所がある

池子の森自然公園（旧柏原村跡）

- かつて村落・農地が存在
- 旧日本軍接収で生活が途絶
- 管理主体が消失
- 現在もマダケ竹林が拡大中



竹の種類も異なる

逗子：真竹（マダケ）メイン

葉山：孟宗竹、淡竹（ハチク）
メイン

→拡大の仕方・管理難度が異なる



拡大の仕組み (研究知見)

- 竹の分布拡大は地下茎による栄養繁殖が主体
- 基本的に、人が植えた場所を起点に広がる
- 管理放棄が拡大の直接要因になる



現在起きている変化

- 手入れが止まり、敷地ごとの竹がつながってしまった
- 管理境界が失われ、個人では対応困難に
- 近年、移入イノシシが定着、拡大

⇒人の関与が途切れたことで起きている変化です



土地の 性格が違う

逗子：都市周縁の管理問題

葉山：私有地・履歴の問題



関わり方も地域によって変わる

逗子竹活

団体が自治会・行政と連携することで
参加型管理が成立（公共性の高い場所）

葉山竹活

地権者を起点に、私有地ごとの関係調整と
小さな関与の積み重ねで成立（信頼ベース）



同じ竹でも地域の 文脈を汲み取る

- 有り体の竹活用（竹細工、メンマ、竹炭、竹チップなどの商品化）だけで解決する問題ではありません。
- 土地との関係をどう結び直すかがカギ。



地域の文脈に 合わせた実践例 ①現場への入り口

- 地権者・地域からの相談／関係づくりから開始
- 整備ありきではなく「その土地の使われ方」を確認

新宿4丁目1569-1

この緑地の里親は、
「逗子竹活 in 小坪」です。
市では地域の方に親しまれ育てていただく緑地
を目指して、緑地の美化活動や清掃を行う方
を里親とするアダプト・プログラム（里親制度）
を行っています。

逗子市緑政課





②小さく関わる回路を作る

- 仕事ではなく関係を増やす
- そのための場を作る

③ 継続の仕組みへ

- 自治会・行政・学校・事業者などと役割分担
- 一次産業的な営み（農・林・食・資源利用）を部分的に再接続
- 無理に拡大せず、その土地に合う形で継続

⇒ 竹活とは、竹林と土地との関係を編み直す活動です。



まとめ

竹林問題の本質とは、
土地の使われ方の変化の問題です。

竹活用を語るだけでなく、
その場所がこれまでどのように使われてきたのかを知り、
再接続への取り組みを継続していくことが重要。

**地権者を主体とした地域の生業と、
団体・企業・NPO・学校・行政との
連携が不可欠です**



地域で長年竹林整備に
取り組まれてきた皆様の活動
(ご協力：三浦竹友の会)

